京都発！確かな教育実践のために　38

自ら学ぶ*

LOVE　OF　LEARNING

中学校・国語科

京都市総合教育センター　研究課･カリキュラム開発支援センター

生徒自身が単元を通して自分の学びを見つめる

各時間の自己評価

			日付
学んだことの確認			今日の授業で考えたこと
学習後の「問い」			生まれた「?」
一生懸命考えたか		5	考え度
目標に近づけたか		4	達成度

〈毎時間，このような
自己評価をする必要はあるの？〉

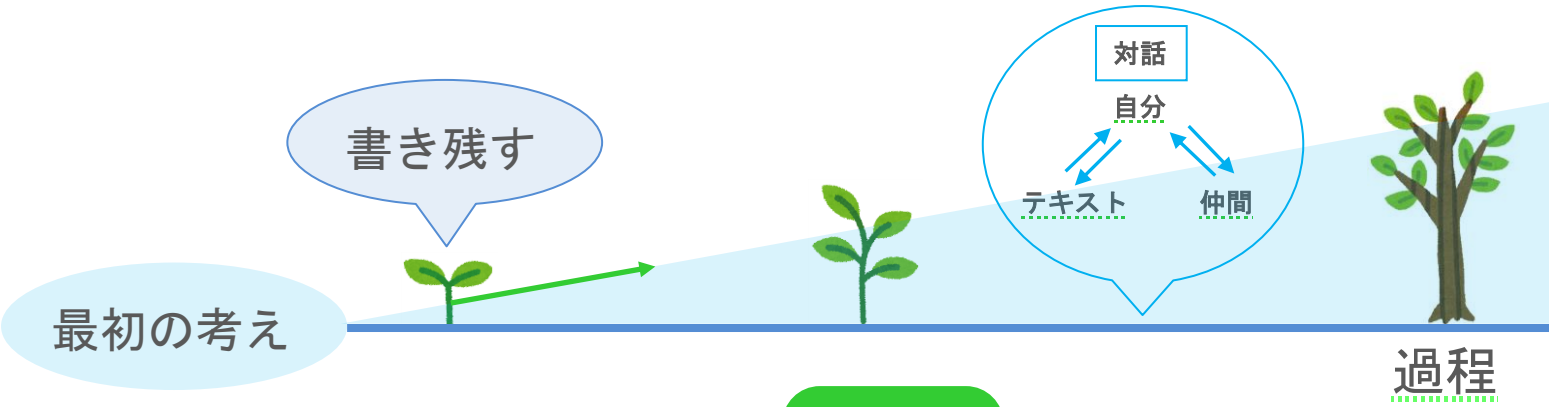
→ 各授業には目標があるため，生徒による自己評価も必要です。ただし，単元や教材によって，数値のみなのか，記述がどの程度必要なのか考えましょう。

＊ 例えば，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の３領域で，ある程度時間をかけて指導が必要な単元では，記述が効果的　など。

→ 次の学習への意欲につなげるためにも，今の自分を見つめることが重要です。

→ 毎時間行うことで，自己評価力の向上にもつながります。

教師の声かけなど支援を忘れずに



Step 1

＊単元を通した学習課題を設定する＊

設定のポイント

① 客観的根拠が収集可能であること。
② 様々な意味づけが可能であること。
③ 個々の生徒が自分の価値観を反映しつつ考えを形成できること。

Step 2

＊生徒の「問い」を
課題解決のために生かす＊

例えば『走れメロス』で…

〈教師が提示する単元を通した課題〉

「太宰治が『走れメロス』を通して伝えたかったことは何か」

〈解決するために生徒自ら見つけた「問い」〉

- 「走らない場面は必要か」
- 「走れメロス」は題名としてふさわしいか
- 「暴君ディオニスは，暴君なのか」

単元学習終了後の自己評価

●振り返りシートやノート・プリントを見返して　評価しよう！	達成度
① 根拠として登場人物の言動を具体的に挙げられた。	
② 1の言動から二人の人物を比較しながら、どのような考え方・生き方をしている人物か述べられた。	
③ 1、2からそれぞれの考え方や生き方について自分はどのように考えるか述べられた。	
④ 古典文学である『扇の的』の学習を通して、どのようなことを感じ、学習前と比べどのような変化がありましたか。	

＊目標に沿って、一部文言を変えれば、他の単元でも使用可能。

〈①・②・③は目標に対して〉

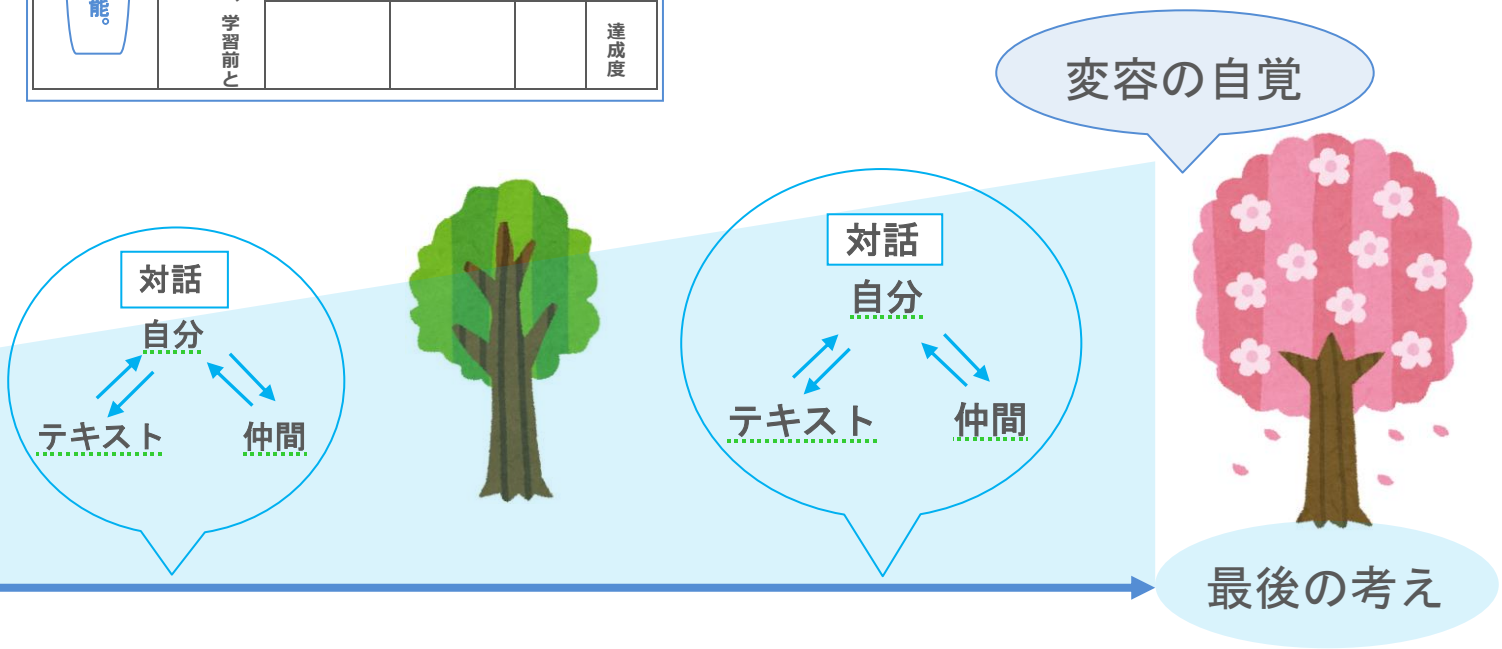
＊ 教師側から視点を与えます。
（読みの過程に従って，①→②→③と視点を与える など。）

〈④は自分の変容を自覚する＆
各時間の自己評価を見つめ直す〉

＊ 自分の成長を感じることで次も考えようと思えることが大切です。

＊ 1時間ごとの自己評価を見つめ直し，数値や記述が適切か考えながら，どのように自分の学びを評価するのか知る。

教師の視点で生徒の自己評価を見て，個々への声かけや全体での共有をしましょう。



Step 3

＊生徒の「問い」を
授業づくりに生かす＊

例えば『扇の的―「平家物語」から』で…

〈教師が提示する単元を通した課題〉

「上に立つ者として，義経と敦盛（家来として，与一と直実）どちらが魅力的か」

〈学習後生徒から生まれた「問い」〉

A.「人間として，リーダーとしてどちらが大切なのか」

B.「敦盛に直実の優しさは届いたか」

C.「なぜ義経は平然と殺せるのか」

【 次の時間以降の指導に生かす】

＊各学級がどのような読みをしているのか具体的に把握できます。
＝具体的な発問の想定が可能。
例えば…第２時終了後に自己評価シートを回収したとき，右のA・B・Cの「問い」が出てきていたら

A.「人≠武士≠大将なのか」

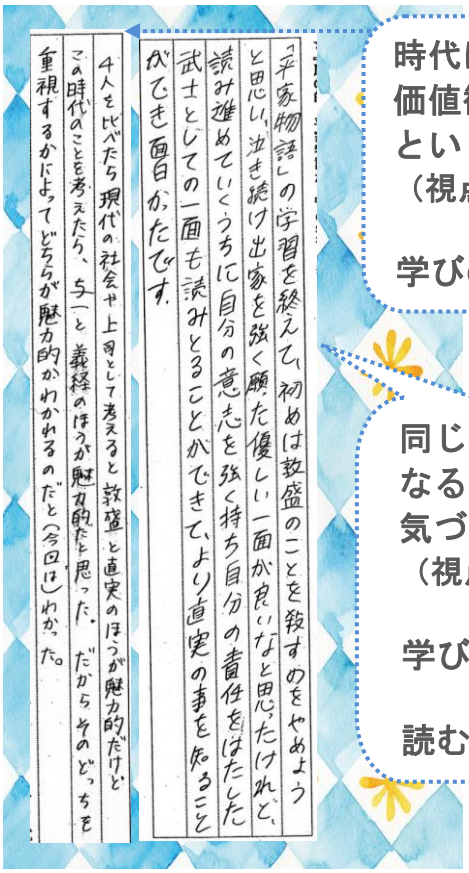
B.「武士としての優しさとは何だろう」

C.「平然となのか」「殺さなければ…？」

※授業の最初に全体に対して発問するのか，各班や個々に発問するのか場面の想定をすることも大切です。

＊次の時間生徒たちから出てきてほしい「問い」を具体的に想定した展開が可能。

変容を見る

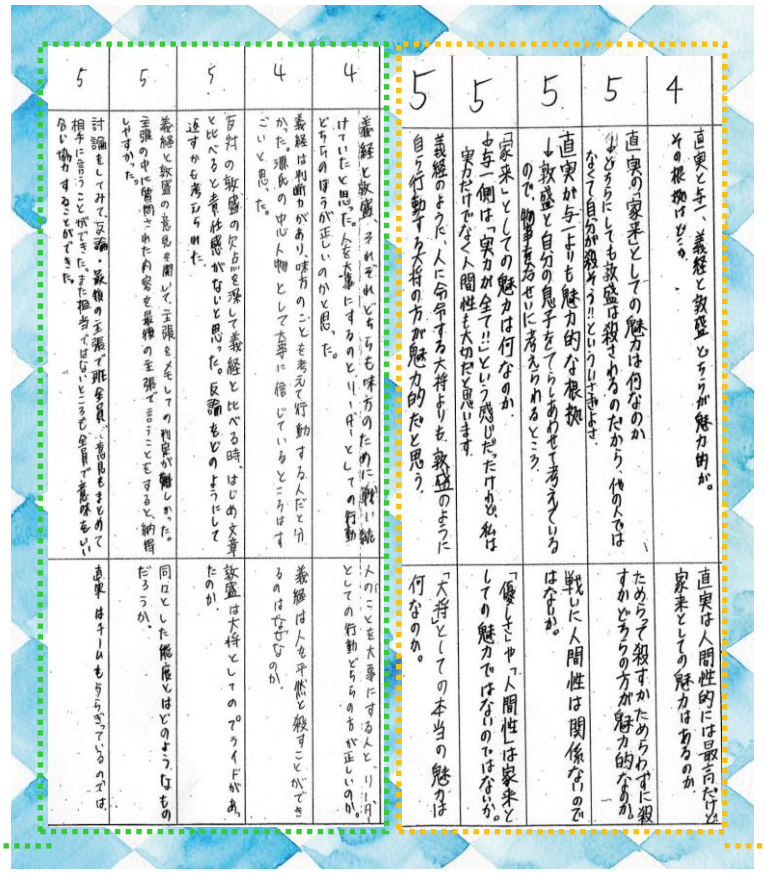

「平家物語」の学習を終えて、初めは敦盛のことを殺すのをやめようと思い、出家を強く願った優しい一面が良いなと思ったけれど、読み進めていくうちに自分の意志を強く持ち自分の責任をはたした武士としての一面も読みとることができて、より直実の事を知ることができ面白かったです。

4人を比べたら現代の社会や上司として考えると敦盛と直実のほうが魅力的だけど この時代のことを考えたら、与一と義経のほうが魅力的だと思った。だからそのどっちを重視するかによってどちらが魅力的かわかれるのだと(今回は)わかった。

時代による
価値観の相違
という気づき
（視点の変化）
＝
学びの自覚

同じ人物の異
なる一面への
気づき
（視点の変化）
＝
学びの自覚
＝
読む面白さ

記述・「問い」・数値を見る


4	直実と与一、義経と敦盛どちらが魅力的か。その根拠はどこか。
5	直実の「家来」としての魅力は何なのか。少しどちらにしても敦盛は殺さないのだから、他の人ではなくて自分が殺そう!!という心中まよさ。
5	直実が与一よりも魅力的な根拠 ↓ 敦盛と自分の息子をてらしあわせて考えているので、物事をおせに考えられるところ。
5	「家来」としての魅力は何なのか。与一側は「実力が全て!!」という感じだけれど、私は実力だけでなく人間性も大切だと思います。
5	義経のように、人に命令する大将よりも、敦盛のように自ら行動する大将の方が魅力的だと思う。
4	直実は人間性的には最高だけど家来としての魅力はあるのか。
4	義経と敦盛、それぞれどちらも味方のために戦い続けていたと思った。人を大事にするのと、リーダーとしての行動どちらのほうが正しいのかと思った。
4	義経は判断力があり、味方のことを考えて行動する人だと思った。源氏の中心人物として大事に信じているところはすごいと思った。
4	敦盛は大将としてのプライドがあったのか。
4	義経は人を平然と殺すことができるのはなぜなのか。
4	人のことを大事にする人と、リーダーとしての行動どちらの方が正しいのか。
5	敦盛の気持を考えて義経と比べる時、はじめ文章と比べると違和感がないと思った。反論もどのようにして返すかも考えられた。
5	義経と敦盛の意見を聞いて、主張をそれぞれの視点が鋭しかった。
5	討論をしてみて、反論・最後の主張が班全員、意見もまとめて相手に言うことができた。また相手ではないところも全員で意味をいい合い協力することができた。
	同じとした他者とはどのようなものだろうか。
	直実はチームもちらばっているのでは

Step 4

＊自己評価シートを回収し，
その後の授業づくり，
指導改善に生かす＊

・「考えたこと」と「問い」の関係，「考え度」と「達成度」の関係，記述と数値の関係を見る。
・単元学習終了後に回収した自己評価シートを基に，授業の課題を見つけ，同じ領域だけでなく，異なった領域の指導にも生かす。

【例えば】

第４時・第５時の記述
　討論の留意点について記述＝目標とのずれ
→読みを深めるための討論（「話すこと」）が目的化。第３時（異なる価値観をもった者同士での対話）のグループ・ディスカッション（１年生）の活用で十分。
「問い」を見ると，第１時の「問い」を解決するための「問い」を毎時間抱き，考えていることが分かる。

第２時終了時点

自己評価の効果

- 自分の成長を実感できる
- 個々の学ぶ意義が生まれる
- 自己評価を繰り返すことで，自分を見る目が鍛えられる
  ＝生徒の自己評価力の向上

によって二つの評価が近づく

「学びに向かう力・人間性」を教師は
どう見取っていくのか…？

個人内評価 → 個々の変容（伸長）

主体的に学習に取り組む態度
「知識・技能」「思考・判断・表現」の獲得に向けて
（観点別評価）
学習を調整する態度
粘り強く取り組む態度

【例えば】

生徒の自己評価から…
→第１時から第４まで同じような「問い」を抱き，その解決に向けて，様々な角度から考えようとしている。
＝自分の抱いた「問い」に対して，調整しながら学習を進めている。かつ，粘り強く取り組んでいる。

自己評価の目的

1時間ごとの自己評価

単元ごとの自己評価

1年間の自己評価

何のために
自己評価をする
のか考えよう！

〈学習の内容・成果・課題の確認をする（１時間ごとの自己評価）〉

＊どのくらい一生懸命考えたか。その結果，得たことは何か。
＊目標に対してどの程度近づけたか。
＊納得していないことは何か。

「一生懸命考えること」
の意味を考えさせて
いくことも大切です!

〈変容を自覚する（単元ごとの自己評価）〉

＊最初と比べて自分の考えはどのように変容したか。
＊考え度：どのくらい一生懸命考えたか。その結果，得たことは何か。
＊達成度：目標に対してどの程度近づけたか。考えたこととつながるか。

〈学びの軌跡を振り返る（1 年間の自己評価）〉

＊自分はどのように学んできたのか（これまでの学習をつなげて考える）。
＊1 年間の学習の中で，自分が最も学んだ（伸びた）と思うことは何か。

領域を超えて
学年を超えて

カスタマイズする

例えば…

『この絵、私はこう見る』（6 年・書く）
×
『詩の世界』（中 1 年・読む）

『学級討論会をしよう』（6 年・話す聞く）
『鑑賞文を書く』（中 1 年・書く）
×
『新しい短歌のために』（中 2 年・読む）

『パネルディスカッションをする』
（中 2 年・話す聞く）
『意見文を書く』（中 2 年・書く）
×
『走れメロス』（中 2 年・読む）

『グループディスカッションをする』
（中 1 年・話す聞く）
『批評文を書く』（中 3 年・書く）
×
『俳句の可能性』（中 3 年・読む）

「話すこと・聞くこと」
「書くこと」
活用して
×
読みを深める

学年・領域を超えて
生徒の学びを見ることで，
（生徒の自己評価も含めて）
一人一人の生徒の成長を
支える評価・指導改善を
目指すことが大切！

実用 の中で 感性 が磨かれる

感性 があり 実用 がある

「感性 〉実用」「実用 〉感性」
どちらの教材なのか考え，
それぞれの教材で各領域の
よさを生かした授業を！

自分の言葉で
過去の自分
今の自分
未来の自分を
見つめること

×

自分の言葉で
「？」を
繰り返すこと

京都発！確かな教育実践のために　38

学びへ向かう力を育てる国語科の授業・評価を目指して

発行　　平成 31 年 3 月
発行元　　京都市総合教育センター
　　研究課・カリキュラム開発支援センター
　　〒600-8023　京都市下京区河原町仏光寺西入ル
　　TEL　075-371-2705　　FAX　075-353-4851

詳しくはこちらを検索